

TeaTime

vol. 87

2024
Winter

無料配布

特集 ① ▶P.2

インフルエンザ、ノロウイルス… 冬の感染症にご用心



特集 ② ▶P.6

500人以上が来場 オープンホスピタルへのご来場ありがとうございました

専門看護師・認定看護師の知恵袋 ▶P.8

「せん妄」をご存じですか？

精神看護専門看護師（リエゾン精神看護） 曾根原純子

ママと赤ちゃんの HAPPY BIRTHDAY ROOM ▶P.9

お母さんと赤ちゃんの退院後の生活を
助産師が快適にサポートします！

5B 周産期ユニット 助産師 松本美鈴

Topics 世界でも活躍する日赤医療センター職員 ▶P.10

現地の赤十字社による持続可能な
活動を目指す取り組みをサポート

国際医療救援部 苫米地則子

スマイルレシピ ▶P.11

白菜たっぷりクリームスープ

栄養課 宮司智子

インフルエンザ、ノロウイルス… 冬の感染症にご用心



新型コロナウイルス感染症の対策に慣れた人は多いかと思いますが、

感染症は新型コロナウイルスではありません。

毎年、冬にはいろんな感染症が流行します。感染症を予防するには、どんな感染症があり、
どんな特徴があるのか、知識を身につけることが大切になります。

冬にはどんな感染症が流行しやすいのか、感染症科副部長の馬渡桃子医師にお話を伺いました。

お子さんと高齢者が
注意したいインフルエンザ

— 冬にどんな感染症が流行するのか
教えてください。

馬渡… 毎年多いのはインフルエンザです。2020年のコロナ禍以降ではあまり流行しませんでした。それ以前は毎年冬になると必ず流行していました。2023年は、珍しく夏に流行しました。一時減少しましたが、冬に向けて再び増加傾向にあります。

インフルエンザの症状で多いのは発熱、頭痛、関節痛です。喉の痛みや咳、鼻水の症状が出る患者さんも多くいます。中には吐き気や下痢といったお腹の症状を訴える人もいます。

— インフルエンザはどうやって感染
するのでしょうか。

馬渡… 飛沫感染という経路で感染します。咳やくしゃみをしたり、話をしたりするときに口から出る細かい水滴となった唾液や痰のしぶきを飛沫といいます。飛沫の中にインフルエンザウイルスが含まれていて、その飛沫が他の人の口や鼻、目といった粘膜にくっつくことで感染します。人との距離が1

く2メートル以内の近いところでマスクをせずに咳やくしゃみをする、飛沫が近くの人まで飛んでインフルエンザに感染することになります。

もう一つ、接触感染という経路もあります。例えば、飛び散った飛沫がドアノブに付いたままになっていて、そのドアノブを触った手でおにぎりやパンを食べたり目をこすったりすると、そこから感染することになります。

——特にインフルエンザに注意する人はいまですか。

馬渡…まずは小さいお子さんです。乳幼児の中には、インフルエンザ脳症とって意識障害を起こして集中治療室での管理が必要になることも、まれにありますがあります。

高齢者も注意が必要です。高齢者施設ではインフルエンザが流行しやすいです。認知機能が落ちていたり、手洗いを忘れてしまったり、感染予防のための行動をとれないことがあるので、感染しやすい側面があります。さらに高齢者は体の免疫機能が落ちているので、感染したときの症状が重くなりがちです。感染して体が弱まったときに肺炎を起こして人工呼吸器が必要になることもあり、場合によっては亡

くなってしまうこともあります。

また、抗がん剤治療中の方や免疫抑制剤を使用している方もインフルエンザが重症化したり長期化するという問題が起こりやすいです。

マスクと手洗いと ワクチンで対策をしよう

——インフルエンザを予防する方法には何があるのでしょうか。

馬渡…飛沫感染を防ぐにはマスクを着けるのが有効です。また、手にインフルエンザウイルスが付いたまま口に触らないために、食事の前にせっけんを使って手洗いをしてください。目の粘膜も感染経路になるので、目を触る時やメイクをする前にも手洗いをするのがよいと思います。外にいるときに目にゴミが入ったときには、直接手で触らずにきれいなハンカチやティッシュを使うといった配慮ができると、感染を防ぎやすいと思います。インフルエンザウイルスは新型コロナウイルスと同じようにアルコールに弱いので、アルコール消毒も有効です。

もちろん、予防接種も大切です。予

インフルエンザ



防接種は感染や発症を100%防ぐものではありませんが、重症化を防ぐ効果があります。そして、多くの人が予防接種をすることで、社会全体で感染者を減らすことが期待できます。実は、免疫が弱くて予防接種を受けても効果がほとんど得られない人たちがいます。例えば、血液関係の病気の方

や、抗がん剤の治療を受けている方、免疫抑制剤を投与されている方たちがそうです。そうした方たちを感染から守るためには、一緒に生活している人たちが予防接種を受けて発症する人なるべく減らすことです。ご家族に免疫機能が落ちていらっしゃる場合には、ぜひ周りの人が予防接種を受けてほしいと思います。

——予防接種は、新型コロナウイルスのワクチンと一緒に打っても大丈夫ですか。

馬渡…はい、インフルエンザと新型コロナウイルスのワクチンは同時接種できます。ただし、インフルエンザワクチン以外は新型コロナウイルスワクチンと同時に接種できません。お子さんで定期接種の予定が入っているときには、スケジュールを考えて新型コロナウイルスワクチンを接種するようにしてください。

——昔から予防には手洗いとうがいといわれていますが、うがいはどうでしょうか。

馬渡…うがいについてはあまり明確なデータがありません。口の中に入ったウイルスを洗い流す効果はあるかもしれませんが、それならマスクを着けるのがよいと思います。

もう一つ気をつけてほしいのが、加湿器です。乾燥対策として冬に加湿器を使っている人もいると思いますが、しっかりと手入れをしないと加湿器の中でカビが増えてしまい、過敏性肺炎など肺の病気になってしまうリスクがあります。

——熱が出たらどうすればいいでしょうか。

馬渡…まず、自分で動けない、水分補給ができないというときは命に関わるので、すぐに医療機関を受診してください。発熱は新型コロナウイルス感染症と共通する症状なので、手元に抗原検査キットがあれば調べてください。

もしコロナ陽性だった場合、自分に基礎疾患がある、高齢であるなど重症化リスクがあるときには、軽症であつても薬を処方してもらうために医療機関を受診してください。今はオンライン診療もできる場所があるので、それを利用するのも選択肢の1つです。新型コロナウイルスの重症化リスクがなく、軽症の場合には、脱水症状に気をつけながら自宅の様子を見てもよいと思います。ただ、日に日に具合が悪くなってきたら、医療機関を頼ってください。

——日頃から気をつけることは何がありますか。

馬渡…やはり規則正しい生活と適度な運動をして基礎体力をつけておくことです。熱が出ると体力が大きく消耗してしまい、休むことでさらに筋力が落ちてしまいます。また、他の病気、例えばがんの患者さんでも手術や抗がん剤治療を受けた後の体力の回復は、日

規則正しい生活



適度な運動



バランスのよい食事



十分な睡眠

頃から運動をしている方のほうが早い印象があります。日頃からバランスのよい食事を心がけ、十分な睡眠と適度な運動を習慣として身につけてほしいと思います。

ノロウイルスは 脱水症状に注意

——インフルエンザ以外に冬に流行する感染症には何がありますか。

馬渡…ノロウイルスがあります。ノロ

ウイルスは感染すると小腸で増えるので、嘔吐^{おうと}と下痢が主な症状になります。感染経路としては接触感染と、カキなどの二枚貝を生のまま食べて感染する経路があります。ノロウイルスは、感染者の嘔吐物や便にも含まれ、それらの処理の際にはねて浴びたり吸い込んだり、汚染物を触った手を介して口に入ること、取り込まれます。ごく微量のウイルスでも感染するため、同居する家族はとも感染しやすいです。

ノロウイルスで注意してもらいたいのは、インフルエンザウイルスや新型コロナウイルスと違ってアルコールが効きにくいことです。ご家族で感染者が出たら、その方のケアをした後は必ずせっけんと流水で手洗いをしてください。もし床に吐いてしまったり便が飛び散ってしまったら、雑巾で直接拭くのではなく、まず使い捨てのペーパータオルなどを上から重ねて次亜塩素酸スプレーを吹きかけて、飛散しないようにまとめてビニール袋の中に入れて袋の口をしっかり閉じて捨ててください。

——もしノロウイルスに感染したら、どんなことに気をつけたらいいでしょうか。

馬渡…ノロウイルスは一般の方に保険適用となる検査キットはないので、症状や、周りの人で同じような症状の人がいたかどうかの状況証拠で診断することになります。

症状が出たときの対処法ですが、一番怖いのは脱水症状なので、脈が速くなったり意識が朦朧^{もろく}として自分で水分補給ができなかったりするときには、

医療機関で点滴を受けてください。嘔吐や下痢が一時的で、自力で水が飲めるようであれば自宅で様子を見てもよいと思います。最近では経口補水液といって、体に吸収されやすい糖や電解質を含む飲み物がドラッグストアなどで売られているので、そういったものを常備しておいて嘔吐や下痢の症状があるときに飲む、というのも有効です。

ノロウイルス



外来患者を診ながら 抗菌薬の適正使用に取り組む

——馬渡先生がいる感染症科はどんなことをしているのですか。

馬渡…主にHIV感染症／エイズを診療しています。当センターはエイズ診療拠点病院の一つなので、他の医療機関から患者さんを紹介されることが多くあります。性感染症関連として梅毒の治療も外来で行っています。また、デング熱などの渡航関連感染症も扱っています。コロナ禍では海外に行く人がほとんどいなかったので患者さんもまれでしたが、最近はまた診るようになっていきます。

その他に、私たちの大切な仕事は院内に向けたものもあります。感染症科コンサルテーションとして、他の診療科で感染症の治療について困ったときには相談を受けています。病院における感染対策のためのマニュアル作成も行っており、定期的に見直しています。

そして、抗菌薬の適正使用にも取り組んでいます。抗菌薬は細菌が原因の

感染症を治療するのに有効ですが、むやみに使うと抗菌薬が効きにくい薬剤耐性菌が増える一因になってしまっています。国も薬剤耐性菌の問題は認識していて、薬剤耐性対策アクションプランを2016年から2020年にかけて策定し、再び2023年から2027年にかけてのアクションプランを実施中です。この中では、いろいろな抗菌薬の使用量について目標値を決めています。

感染症科では、一人一人の患者さんに対して抗菌薬の使い方が適正かどうかサポートする仕事をするだけでなく、院内全体の抗菌薬の使用状況を把握して問題がないか分析しています。そうして病院全体で抗菌薬の適正使用が推進されるようにしています。



感染症科 副部長 馬渡 桃子
Momoko Mawatari



オープンホスピタルへのご来場ありがとうございました!

2023年10月15日(日)に、“これからも地域とつながる。51年目の日赤医療センター”をキャッチコピーに4年ぶりにオープンホスピタルを開催しました。あいにくの雨にもかかわらず、500人以上の方々にお越しいただき、実行委員をはじめ、職員一同、感謝の気持ちでいっぱいです。



中島院長
ピアノ
コンサート

今回のオープンホスピタルは、「地域の方々に私たち日赤医療センターを身近に感じていただく」ことをテーマに掲げ、取り組んでまいりました。これまでも人気の高かった「ホスピタルツアー」は、今年も多くの方々に参加いただき、大変にぎわいました。それ以外にも、私たちの病院で日々行っていることや大切にしていることを皆様にご理解いただきたく、全体で23の企画を開催しました。その企画にも予想以上の訪問がありました。このことから、病院が行っている治療や検査に、皆様に関心を持ってくださっていると感じ、これからも

皆様が満足していただける医療やサービスを提供する使命を強く感じました。

また、当センター院長のピアノコンサートやハートプロジェクトなどの新しい企画もあり、私たちの病院の新たな一面をお見せできたことも嬉しく思います。

来年も地域の皆様に向けて、日本赤十字社総合福祉センター（レクロス広尾）と協力して開催する予定です。新しい企画も考えてまいりますので、次回もぜひお越しください。ありがとうございました。

手術室
見学ツアー



本物の器具を体験

薬剤師を
知ろう!



調剤体験して薬剤師さんのお仕事がわかったよ

検査
見学ツアー



グローブ装着完了!



ハート
プロジェクト
ひびきあうハート
Tokyo2023

今回、初めて当センターは NPO 法人コミュニアル様と共同で、病院に芸術作品を展示して患者さんなどに楽しんでもらう「ホスピタルアート」のワークショップを開催しました。多彩なハート作品を手がけるアーティストの西村公一（にしむら こういち）さんを迎えて、ご来場のみなさんと一緒にマスキングテープで小さいハートを作り、そのハートを集めて大きなハートを作りました。作品はガラス窓に展示してあります。ぜひじっくりと眺めていただき、人の手や心（ハート）のあたたかみを感じていただければ幸いです。



『こぐまチーム』
って
なあに？

がん患者さんの家族支援アクティビティ



ワークショップの様子



制作指導・監修をした
アーティストの西村さん



あなたの
まちの
小児救急

ナース＆ドクター体験



心肺蘇生とAEDの体験

赤十字は
動いている
SAVE365



救護車両の前で記念撮影



あなたの手、
きれいに洗えて
いますか？

洗い残しはないかな？



放射線治療は
高精度??

ピンポイントで治療する
サイバーナイフ



内視鏡室
見学

医師になったらやってみたい

専門看護師

認定看護師

の 知恵袋 27



精神看護専門看護師
(リエゾン精神看護) 曾根原 純子
Junko Sonehara

日本赤十字社医療センターには、日本看護協会が認定している専門看護師20人、認定看護師28人がおり(2023年6月現在)、それぞれの分野に特化した看護ケアを患者さんに提供しています。本連載は、私たち「専門看護師」「認定看護師」を皆さんによりいっそう知っていただくため、耳寄りな情報をリレー形式でお伝えします。

「せん妄」をご存じですか？

こころと身体の 密接な関係

身体に対する治療で入院しているのに、こころの機能が変化する場合があります。今回はその代表的な「せん妄」についてのお話です。

せん妄とは

脱水や感染、貧血、薬物など身体に何らかの負担がかかった時に脳の一時的な機能低下が起こり、非常に強い寝ぼけのような状態になることを指します。

入院患者さんの10〜15%に起こると言われており、入院直後や手術後などに体験されています。

せん妄の症状

- 場所や日付や時間がわからなくなる
- 実際にはないはずのものが見える
- 落ち着かず、怒りっぽくなる
- 身体についている治療の管(点滴やドレーン)を抜いてしまう
- 睡眠リズムが乱れる
- 話のつじつまが合わなくなる
- **こんな原因が主にあります**
- 肺炎や尿路感染などの感染
- 脱水や貧血
- 電解質(ミネラル)の異常

せん妄の治療

せん妄があるときには、原因となる病気を治して、身体症状の改善を目指します。また、睡眠のリズムを整える薬や、イライラ感があるときには神経を鎮める薬を使うことがあります。

ご本人とご家族に 入院中にお願したいこと

せん妄では日付がわからなくなることがあるので、日頃の感覚や生活を取り戻すために、時計やカレンダーを近くに置いて一緒に日時の確認をしましょう。睡眠のリズムを整えるためにも、会話や軽い運動、新聞・雑誌・テレビなどを取り入れるのも有効です。もし、ご本人に痛みや便秘、口の渇きなど気になる症状があるときには、早めにスタッフにお知らせください。

ご家族にできること

入院中の活動と睡眠リズムを整えて認知機能の維持を目指す院内デイケア(cross)を実施しています。ぜひご利用ください。

ご本人がつじつまの合わないことを言うときは、訂正すると怒り出すことが多いので、否定せずに「怖かったね」「辛いね」といった、気持ちに寄り添った言葉をかけてみてください。

さい。また、せん妄の症状は認知症に似ているので、入院して急に認知症になってしまったのではないかと思われがちです。しかし、認知症は徐々に進んでいくもので、せん妄とは異なります。

精神科リエゾンチーム

せん妄だけでなく、不安・不眠・抑うつにも対応する「精神科リエゾンチーム」が活動しています。メンタルヘルス科医師と公認心理師とともに回診をしていますから、心配なことがあれば、いつでもスタッフに相談してください。



院内デイケア ～cross～の様子



この日は塗り絵をしました

精神看護
専門看護師
(リエゾン精神看護)

複雑で解決が難しい健康問題を抱えた患者さんやご家族に向けて、精神看護の知識や技術を用いながら水準の高い看護ケアを提供します。

●専門看護師 (CNS : Certified Nursing Specialist)

患者・家族に起きている問題を相対的に捉えて判断する力と広い視野を持ち、分野ごとの専門性を発揮しながら、施設全体や地域の看護の質の向上に努める。

●認定看護師 (CN : Certified Nurse)

患者・家族により良い看護を提供できるよう、分野ごとの専門性を発揮しながら看護の質の向上に努める。



お母さんと赤ちゃんの退院後の生活を助産師が快適にサポートします！

当センターでは、2019年から「母と子のサポートプラン」（産後ケアショートステイ）を行っています。2023年9月からは対象者を広げ、当センターで出産された方に限らず、産後4ヵ月未満であればどなたでもご利用いただけるようになりました。

出産する女性の高年齢化や家族形態の変化（核家族化）などにより、産後に頼れるところがない方も増えています。ワンオペ育児も少なくありません。そんな中、2019年に母子保健法の一部を改正する法律（産後ケア事業の法制化）が公布され、2021年から施行されており、産後ケアへのニーズはより一層高まっています。

2023年9月からは、「母と子のサポートプラン」のケアやサービス内容も見直し、リニューアルしました。産後ケアを利用する目的はさまざまです。入所時に助産師が問診をしながらカウンセリングを行っています。どのように過ごしたいのか希望をうかがいながら、それぞれのご希望に沿えるよう、お母さんと一緒にプランを考えています。



お部屋からの景色
5階のお部屋からは、晴れた日には富士山が見えます。

お部屋の写真

赤ちゃんやゆったり静かに過ごすことができるお部屋です。ご家族の面会やパートナーの宿泊も可能です。



プランの紹介

★ やすらぎプラン（休息プラン）

赤ちゃんのお預かりや沐浴、授乳など、ゆっくり休めるよう育児のサポートをしています。

★ はぐくみプラン（授乳支援プラン）

授乳がうまくいかない、まだ慣れずに不安、乳房の状態に不安があるなど、少しでも不安が解消できるよう支援しています。

★ ファミリーサポートプラン（家族支援プラン）

パートナーの方も宿泊できます。お母さんへの支援はもちろん、家族やパートナーも一緒に育児について話し合うことができます。

その他にもオプションケアとして、アロマでゆったりと背部マッサージや乳房マッサージなども行っています。ちょっとした気分転換もできる、足浴や骨盤ケアクラスへの参加などもできます。

産後ケアはいつでも助産師に相談できる環境で、安心して心と身体を休めることができます。お母さんが自分を大切に笑顔で赤ちゃんとお過ごせるように、私たち助産師がサポートいたします。ささいな疑問や不安を口にするだけでも、心が軽くなったりもします。一人で頑張らず、ぜひいつでもご相談ください。



5B周産期ユニット 助産師
松本美鈴
Misuzu Matsumoto



『世界でも活躍する日赤医療センター職員』

日本赤十字社は、海外における紛争の犠牲者や災害の被災者の救援を行う国際救援活動、開発途上国の保健衛生状態の改善などを行う開発協力事業などの人道的活動を行っています。当センターの職員も派遣されており、世界の人々の苦痛の軽減に取り組んでいます。今回は、避難民を支援する現地のスタッフをサポートした様子を紹介します。



避難民の健康を守る地域保健活動をサポート

現地の赤十字社による持続可能な活動を目指す取り組みをサポート

バングラデシュ南部避難民保健医療支援 地域保健事業アドバイザー 国際医療救援部 苫米地則子
Noriko Tomabechi

国際救援活動では、日赤スタッフが医療サービスを提供する場合もありますが、現地の赤十字社の能力強化を支援する活動も行います。

2017年8月、ミャンマー・ラカイン州からの暴力から逃れてバングラデシュ南部へ避難したムスリム系住民は、今なお未来への展望が不透明なまま、避難民キャンプでの生活を続けています。この状況下で、日赤は保健医療支援を緊急から中長期の事業へと切り替え、6年にわたり支援を続けています。バングラデシュ赤新月社※1(以下、バ赤)のスタッフと避難民ボランティアが運営するヘルスポスト(診療所)には、今も多くの患者さんが受診しており、避難民の健康を守るための地域保健の活動をサポートし続けています。

私は2023年8月、バングラデシュ派遣の5回目の機会を得ました。その中で、地域保健の活動を向上させるために、バ赤のコミュニティ・ファシリテーターら※2に対するトレーニングの計画と実施をサポートしました。バ赤の保健部門の関係者とすでに派遣中の日赤スタッフとともにトレーニングのコンセプトを参加者の全員が合意するまで話し合い、具体的な計画を策定しました。プログラム内容はバ赤の担当者によって一部作成されましたが、目的や目標を明確するようアドバイスし、日数や内容を調整しました。また、トレーニングを評価するためのアンケートや参加者の理解度を測定するテストを共に作成し、現地で教育プログラムをサポートしました。

今回の派遣はバ赤スタッフの能力向上を支援するもので、持続可能な活動にするための知識、技術、およびシステムを伝えることが重要です。そのため、サポートすべきポイントを見極め、教育的なアプローチが必要で、アドバイスの伝え方などに苦労しました。しかし、嬉しい瞬間もありました。2017年当時からこの活動を続け

ているバ赤のスタッフが参加者を飽きさせないよう工夫を凝らしたセッションの提供している姿に驚かされ、成長を垣間見ることができました。

現在、世界は不安定な時代で、自然災害や人道危機が次々に発生しています。バングラデシュ南部の避難民への日赤の支援活動は今も続いており、彼らの存在を忘れずにいてほしいと願っています。

※1 赤新月…
イスラム圏の国々が赤十字の代わりに用いる赤い三日月のマークで、赤十字と同じ意味を持つ。

※2 コミュニティ・ファシリテーター…
避難民キャンプでのボランティア活動のまとめ役を務めるバ赤スタッフ



NCDs(非感染性疾患)に関する講義 ©日本赤十字社



トレーニングの様子(参加者による発表)
©日本赤十字社



彼らの今後の活躍に期待しています ©日本赤十字社



「白菜たっぷりクリームスープ」

当センターの栄養課の職員がおすすめする体にも心にも優しい、
食べたら思わず笑顔になってしまうようなレシピを紹介するスマイルレシピ！
今回は宮司智子管理栄養士が紹介する「白菜たっぷりクリームスープ」です。

材料（2人分）

- 白菜…………… 200g
- まいたけ…………… 60g
- ベーコン…………… 1枚
- 水…………… 150ml
- 牛乳…………… 150ml
- A〔塩…………… 小さじ1/4
コンソメ…………… 小さじ1/4〕
- 黒こしょう…………… 適宜



作り方

- ① ベーコンは2cm幅に切る。
- ② 白菜は短冊切り、まいたけは小房に分ける。
- ③ 鍋に①を入れて中火で炒め油が出てきたら、②を加える。
- ④ ③に分量の水を加え白菜が柔らかくなるまで煮る。
- ⑤ 牛乳を加えAで味を整え、弱火にかけ沸騰直前に火からおろす。
- ⑥ 器に盛りお好みで黒こしょうをかける。



寒い冬にぴったりの
温かいスープで
身も心もポカポカに

栄養成分（1人あたり）

エネルギー	……………86kcal
たんぱく質	……………6.0g
脂質	……………4.1g
炭水化物	……………7.8g
カルシウム	……………225mg
食塩	……………1.0g

使用する材料の効果

冬野菜の代表である白菜は味にクセがなく幅広い料理に使える便利な食材です。白菜の成分のほとんどは水分ですが、抗酸化作用のあるビタミンC、カルシウムの吸収を助けるビタミンKなどの栄養成分を含んでいます。スープに牛乳を加えることでカルシウムを補給できるだけでなく、「コク」や「旨味」がプラスされ、少ない塩分でも物足りなさを感じずに食べることができます。野菜たっぷり、栄養満点のスープで身も心も温めて、これからの寒い季節を乗り切りましょう。

*食事療法を行っている方は医師や管理栄養士へご相談ください。



栄養課
宮司 智子
Tomoko Miyaji

たくさんのご寄付や応援をいただきありがとうございます。

日本赤十字社医療センターへご寄付いただき、誠にありがとうございました。

皆さまからの貴重なご寄付は、新型コロナウイルス感染症への対応にかかる費用、医療機器・材料の購入費を含めた「病院事業運営資金」として大切に使用させていただきます。

ご芳志への感謝の気持ちを込め、ご芳名を紹介させていただきます。なお、許可をいただいた個人、法人および団体名のみを掲載しています。

千葉 繁雄 さま

斉藤 昂祐 さま

近藤 晴澄 さま

※順不同（2023年8月から10月まで）

いつも貴重なご意見をありがとうございます

ご来院の皆さまこんにちは、ご意見箱です。

設備、接遇に関してご意見をいただきました。

- （ご意見：設備）** 中央採血室のトイレ内の手すりがトイレトペーパーの台の上に位置しています。
これが原因で採尿カップを置きにくく、倒れやすい。採尿カップを置きやすくしてほしい。
（改善策） トイレ個室内にトイレトペーパーの台の近くに、採尿カップを置くための台を設置する予定です。
- （ご意見：接遇）** NICUおよびGCUの入院中の赤ちゃんに対する沐浴と沐浴後のケアの指導内容が
担当者によって違うことがあった。
（改善策） 早産児の場合、出生時の週数に応じて成長過程で必要となるケアが異なります。これまでの説明では「現在のケア」と「成長に応じた将来のケア」の違いを十分に伝えきれていなかったことを受け、職員一同で沐浴および沐浴後のケアに関する知識を再確認し、他のケア方法についても確認を行いました。また、家族の方々への説明をより丁寧に行うよう注意喚起を実施し、情報の一貫性と精度向上に努めてまいります。

現在も院内ではマスクを着用をお願いいたします。皆様のご協力を心より感謝申し上げます。



>>> 診察のご案内

月	火	水	木	金	土	日
○	○	○	○	○	休診	休診

● 外来休診日…

土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）、
日本赤十字社創立記念日（5月1日）

● 受付時間… 予約のない方 ▶ 初診・再診 8:30～11:00

予約のある方 ▶ 初診 8:30（初診受付開始）～予約時間の30分前

再診 7:50（再来機開始）～予約時間の20分前

※受付時間は診療科によって異なりますので、事前に診療科受付へお問い合わせください。また、初診の方は「かかりつけ医からの紹介状」をお持ちください。

● 急病の場合…

曜日、時間に関係なく、救急外来で診察します。ご来院の前に
お問い合わせください。

※診療状況によっては、診察をお断りする場合がありますので、当センターホーム
ページをご確認ください。

● 診察カード…

全科共通でご使用できます。ご来院のときは必ずお持ちくだ
さい。紛失・破損した場合は、初診受付にて再発行できます。

※再発行料：1枚 220円（税込）

● 健康保険証…

ご来院のときに確認していますのでお持ちください。
また、保険証の更新・変更時には必ず受診科受付にご提出
ください。

● お薬手帳…

安全な医療を提供するために、「お薬手帳」などをお持ちく
ださい。必要に応じて確認させていただきます。

TEL
（代表）

03-3400-1311

ホームページ
のご案内

赤十字全般に関すること ▶

<https://www.jrc.or.jp>

日赤医療センターに関すること ▶

<https://www.med.jrc.or.jp>

日赤医療センターの
ホームページはこちら ▶



※外来診療の再診スケジュールは、ホームページでご確認ください ※本誌のバックナンバーは、ホームページ上でPDF版をご覧いただけます